

アンサンブル・ノマド 第68回定期演奏会



現代に軸足を置きながらもボーダレスな可能性をプログラム構成によって追究してきたノマドであるが、今回は同時代の動向に焦点を当て、その驚くべき多様性を味わい尽くす企画を掲げた。聴かれる作品は、現在、頻繁に作品が取り上げられ、引きも切らず委嘱を受ける作曲家のものばかりである。異彩を放つ個性によって注目されている作曲家がここノマドの広場に一堂に会するが、「出会い」を掲げた2019年度企画を締めくくるに相応しいプログラムとなった。

どうかここノマドの広場にお集まり頂いて、私達演奏者、作曲家の輪に加わって創造の刺激的な一夜を味わい尽くしましょう。

佐藤紀雄

Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年に行った定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー芸術財団「第2回佐治敬三賞」を、2015年に行った定期演奏会「再生へVol.3:祈り～エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「パン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコのセルバンティーノ音楽祭に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月には再び中国四川公演を行ったほか、今後も中国、オランダやドイツ、フランスなどでの公演を予定している。

また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

CDは、近藤 譲「梔子」(ALCD-47)、「空の眺め」(ALCD-57)、「オリエント・オリエンテーション」(ALCD-67)、「表面・奥行き・色彩」(ALCD-93)、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」(ALCD-60)、池辺晋一郎「炎の資格」(CMCD-28121)、福士則夫「花降る森」(CMCD-28128)が発売されている。海外ではエベルト・バスケスの「Bestiario (動物寓話集)」が2011年に、「Pruebas de vida (生命の証)」が2015年にリリースされ、2014年にはオリジナル・アルバム「めぐる一Meguru」をリリース。2015年夏から秋にリリースされた「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。

公式ウェブサイト: www.ensemble-nomad.com/

出会いVol.3

～ 出会いの共振 ～



今回の出演者: 佐藤紀雄 (gt/cond) 木ノ協道元 (fl) 菊地秀夫 (cl)
花田和加子 (vn) 甲斐史子 (va) 菊地知也 (vc)
佐藤洋嗣 (cb) 宮本典子 (perc)

Guests



パブロ・ガリバイ (gt)



本條秀慈郎 (三味線)

内山貴博 (fl)
林 憲秀 (ob)
南方綾子 (ob)
西村 薫 (cl)
塚原里江 (fg)
森 純一 (fg)
藤田乙比古 (hr)
鈴木 優 (hr)
佐藤秀徳 (tp)
今込 治 (trb)

廣瀬大悟 (trb)
田中翔一郎 (pf)
小坂圭太 (pf)
安江佐和子 (perc)
大久保貴之 (perc)
原田亮子 (vn)
佐原敦子 (vn)
松岡麻衣子 (vn)
阿部 哲 (va)
松本卓以 (vc)



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分